「教育の質保証」実践セミナー

福岡 5/20（水） 大阪 5/21（木） 東京 5/28（木）

【第１部】 １３：００～１４：１５ 「教育の質保証」基礎編

定番セミナー

「教育の質保証」とは ～背景が分かるとやるべきことが見えてくる～

「教育の質保証」というキーワードが意味するものは何か。その背景を整理することで、「教育の質保証」で必要といわれる各取り組みの趣旨を確認します。趣旨が分かれば、「教育の質保証」の取り組みに出てくる、「単位の実質化」、「成績評価の厳格化」、「シラバス改革」、「アクティブラーニング」、「ラーニングアウトカム」などのキーワードが整合性のとれた１つのシステムであることに気が付きます。そして、IR として、何に取り組むべきかも見えてきます。

- 「教育の質保証」でいったい何が求められているのか、その意図が見えるようになり、競争的資金獲得の際にも、効果的な企画を立案できるようになります。
- 「教育の質保証」で必要といわれる各取り組みの位置づけを整理し、IR として何から手を付けるべきかのヒントをご提供いたします。
- 「教育の質保証」に他の人を巻き込むための分かり易いストーリーや言葉が手に入ります。

【第２部】 １４：３０～１７：４５ 「教育の質保証」実践編

＜セッション１＞ 「ＩＲで進化する中退予防」 ～中退者を３年で半減した方法～

NPO法人NEWVERY 理事長 ／日本中退予防研究所 所長 山本 繁

これまでの中退者を減らす取り組みは、学生が中退を申し出たところから手厚いサポートを行うというものが主でした。いま IR を活用し、**中退予備軍となる学生を予測し**、中退を申し出る前に対処することから、中退を減らす取り組みが進んでいます。本セッションでは、『中退予防』とは何かを定義したうえで、多くの学校で成果を生んでいる中退予防戦略の実践事例をご紹介いたします。

- 中退が引き起こす想定外の影響に備えることができるようになります。
- 統計に表れない学生の本当の中退理由があることを学びます。
- ＩＲを活用した中退予防戦略の具体的事例に学びます。

＜セッション２＞ 「本当に自学にマッチした学生を集める募集戦略」 ～志願者数を３年で２０％増した方法～

うちの学校は、どの層の学生を伸ばすのが得意なのか、どんな学生と相性がいいのか。これを把握し、適切な高校に向けて、適切なメッセージを発信すれば、入試広報の効果は倍増します。加えて、入学後のサポートもしやすくなり、大学運営全体に良い効果をもたらします。「教学 IR」にもとづき貴学がどの層の高校に、どのようなメッセージを届けるべきか、作戦を立てるためのヒントをご紹介します。

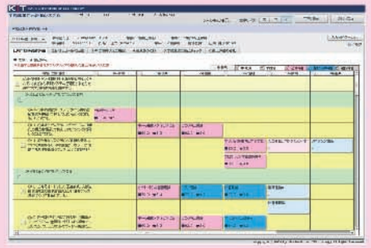
- **高校教員の視点を知り、受験生に自学を薦めてもらう**ためのヒントが手に入ります。
- 学生のことを良く知る教学ＩＲが入試広報の効果向上にどう役立つかがわかります。
- 偏差値ではなく、自学との相性の良さで募集を行う方策を学びます。

＜セッション３＞ 「教育の質保証」を実現するための実践事例

本セッションでは、質の保証への取り組みに関するモデル事例を通じ、次の２つに関する情報提供を致します。各大学が試行錯誤を繰り返しながら、多くの時間と労力をかけた工夫の成果をお持ち帰りください。

①どのように学修成果を把握し、学生指導や評価、教育活動の改善に繋げていけばよいか
②中期経営計画の実現につながる動きをした人が正しく評価される仕組みの作り方

九州工業大学「ディプロマポリシーに基づいた学生の達成度評価」



ディプロマポリシーと各授業との関連付けを行い、授業ごとの成績および学生自身の自己評価によってディプロマポリシーに対する達成度を可視化する取り組みを紹介いたします。

また、多くの大学が FD 活動として実施している授業アンケートは、「否定的な意見を持つ教員がいる」、「費用と労力をかけた割に有効な活用ができていない」、などの問題が浮き彫りになってきています。アンケートを取る代わりに、学生の自己評価による理解度データを活用することで、より効果的な授業改善を行う方法をご提案します。

- カリキュラムマップからディプロマポリシーベースの達成度をチャート表示
- 学生自身の自己評価を核とした学修意識改革
- 学生の理解度データのFD活用

広島女学院大学から生まれた「教職員が連携した学修サポート体制の構築」

これまで教職員が、既に取り組んでいたことを戦略的に連携させることで、ほとんど業務を増やさず、学修サポート体制をより充実させた取り組みをご紹介いたします。

学生の学びの状況を一目見てわかるようにしたことで、学生にとっても、指導する側にとっても、次にやるべきことが見えやすくなりました。また、学内に散らばるデータも一元化でき、ＩＲ基盤としての活用も始まっています。

半期に 1 度の教員と学生の面談を、1 年生から始まるキャリア指導として再定義して、教員間のサポート品質のばらつきを是正する取り組みも進んでいます。

- パッと見て学生の学修状況がわかり、視覚的に進むべき道に気付く
- **学生が自ら進路を考え行動していくようになる**仕掛け
- 要サポートの学生を早期発見し、確実にサポートしていくアクションシグナルシステム

各校で工夫の進む「中期経営計画の策定と組織への浸透」

2018 年を境に 18 歳人口が再び減少をはじめるなど、高等教育機関を取り巻く環境が今、激変しています。この中において、本質的な取り組み（より学修成果の高まるカリキュラムの構築、多様な学生のニーズに応えられる学修サポート体制の整備など）を**実行できるかどうか**が明暗を分ける時代になったと気づき、動き始める学校が増えています。

これらの取り組みで効果をあげるためには、中長期的に継続することが求められます。いくつかの学校で進む、中期経営計画を立てる取り組みと、立てた計画が**計画倒れとならないよう**、職員が主体的に活動をし始めるような仕組み作りをしている事例をご紹介します。

- 中期経営計画を立て、実現に向けて学内の様々な立場の教職員から知恵を集めた方法
- 職員が中期経営計画実現に向けて主体的に活動をし始める仕組み作り
- **ディプロマポリシーとカリキュラムの整合性**を、教職員が協力して点検する体制づくり